

発行：日本社会病理学会

事務局：〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
京都橘大学

TEL 075-574-4224 FAX 075-574-4122

URL <http://socproblem.sakura.ne.jp>

e-mail : takahara@tachibana-u.ac.jp

郵便振替口座：00170-4-56341

編集責任者：高原正興（庶務理事）

【目次】

1. 第31回大会のお知らせ	2
2. 渉外・広報委員会からのお知らせ	2
3. 会員コーナー（近況報告）	3
4. 会員異動	4
5. 事務局より	5
6. 東日本大震災被災地視察・学会特別ツアーのご案内	別冊

重要事項

1. 第31回大会は10月3日（土）4日（日）に岩手大学にて開催される予定です。
2. 第31回大会における自由報告の申込の〆切は6月19日（金）です。
3. 東日本大震災被災地視察・学会特別ツアーの第一次申込み〆切は5月31日（日）です。「別冊ご案内」に記載の通り、学会事務局に申し込んで下さい。

1. 第31回大会のお知らせ

第31回大会は、2015年10月3日(土)・4日(日)の両日、岩手大学にて開催されます。研究委員会では、今年度のシンポジウムのテーマを「東日本大震災：記憶と未来」と決定しました。東日本大震災から4年以上の歳月が流れましたが、それが何をもたらし、どのような課題をつきつけているのか、その内容は時間とともに変容しても、対応への緊急性・必要性はむしろ増大しているともいえるのではないのでしょうか。震災発生から現在にいたるまでの経緯を踏まえ、今後の展望をいかに切り開いていくのかを探ります。登壇者は、麦倉哲(岩手大学)・田中重好(名古屋大学)・関嘉寛(関西学院大学)・菅磨志保(関西大学)の4名の先生方にお越し、大会2日目の午後に開催する予定です。

研究委員会企画のテーマセッションは、今回は見送り、テーマセッションの公募を行います。公募形式によるテーマセッションに応募される方は、企画者名・テーマタイトル・企画の趣旨・報告者案等(A4版1枚：書式自由)を6月19日(金)までに進藤(shindou@lit.osaka-cu.ac.jp)宛ご連絡下さい。委員会にて選考の上、採否を決め、結果を連絡いたします。

最後になりましたが、自由報告を希望される方は、日本社会病理学会HP(<http://socproblem.sakura.ne.jp/format/format.html>)より自由報告申込書をダウンロードいただき、必要事項を記入の上、6月19日(金)までに進藤(shindou@lit.osaka-cu.ac.jp)宛ご連絡下さい。今回の自由報告部会では、**東日本大震災に関する特別報告部会を予定していません**。報告要旨の締め切りは、7月末日を予定しています。なお、以下の諸点にご留意下さい。(1)自由報告部会は、10月3日(土)の午後です。(2)報告時間は質疑応答を含めて25分、報告は20分以内として下さい。(3)大学院生の報告には旅費の補助制度があります。上記のHPから旅費補助申請用紙をダウンロードし、自由報告申込書とともに送付下さい。是非、積極的な応募をお願いいたします。

最後になりますが、今回は特別企画として釜石・宮古・大槌・花巻をめぐる<エクスカーション>が大会翌日に予定されていますので、こちらも積極的なご参加をお願いいたします。

(研究委員会委員長・進藤雄三)

2. 渉外・広報委員会からのお知らせ

1. 社会学系コンソーシアム評議員会に関するお知らせ

2015年1月24日に社会学系コンソーシアムの評議員会が開かれました。そこで決定されたこととコンソーシアムの活動については、2015年3月に発行されたニューズレター8号(<http://www.socconso.com/newsletter/JCSSNewsletter201503.pdf>)をご覧ください。

2. 日本犯罪関連学会ネットワーク第4回定例代表者会議

2015年3月14日に専修大学神田校舎1号館13階A会議室で開催されました。ここでは、2015年度の幹事学会は、前の定例会で内定していたとおり本学会と決まりました。報告事項の後で、日本犯罪関連学会ネットワークの加盟学会の合同大会の可能性について話し合われました。**2017年秋に東京において実現する方向で検討することになりました**

た。本学会が加わるかどうかの確認については理事会で検討しますが、会員の皆様からのご意見を賜れば幸いです。

3. アジア犯罪学会第7回大会

2015年6月24日、25日に香港で開催予定です。テーマは、「変化する世界における犯罪学と刑事司法—アジアからの寄与」です。詳細については、ホームページ (http://www.cityu.edu.hk/ss_acs2015/index.htm) をご覧ください。

4. 2015年度の各学会の大会開催時期・会場は以下のとおりです。

日本家政学会第67回大会	2015年5月22日～24日	(アイーナいわて県民情報交流センター)
日本社会福祉学会第63回春季大会	2015年5月31日	(法政大学市ヶ谷キャンパス)
日本司法福祉学会第16回大会	2015年8月8日～9日	(早稲田大学)
日本家族社会学会第25回大会	2015年9月5日～6日	(追手門学院大学)
日本社会福祉学会第63回秋季大会	2015年9月19日～20日	(久留米大学)
日本社会学会第88回大会	2015年9月19日～20日	(早稲田大学戸山キャンパス)
日本犯罪心理学会第53回大会	2015年9月26日～27日	(東北大学仙台キャンパス)
日本犯罪社会学会第42回大会	2015年11月21日～22日	(桐蔭横浜大学)
日本犯罪学会第52回総会	2015年11月28日	(九州大学)
日本更生保護学会第4回大会	2015年12月5日～6日	(慶応義塾大学日吉キャンパス)

*詳しくは、学会HPの「リンク」から各学会のHPをご覧ください。

(渉外・広報委員会 矢島正見)

3. 会員コーナー（近況報告）

○赤羽由起夫会員（筑波大学大学院）

(1)最近の研究テーマ・関心事

1990年代後半から2000年代前半までの少年非行の戦後「第四の波」の新聞報道における犯罪少年の「心」の語られ方について、デュルケム社会学の視点から研究を続けています。現在は、これまでの研究をまとめて博士論文を執筆しています。

(2)著書・論文等

- ・「犯罪報道における少年犯罪の語られ方に関する社会学的研究——1990年代から2000年代を中心として」公益財団法人日工組社会安全財団 2012年度若手研究助成最終報告書、2014
- ・「なぜ『心の闇』は語られたのか——少年犯罪報道に見る『心』の理解のアノミー」『社会学評論』253、2013、37-54頁
- ・「少年犯罪と精神疾患の語られ方——戦後の新聞報道の分析を通じて」『犯罪社会学研究』37、2012、104-118頁

○朝田佳尚会員（京都府立大学公共政策学部）

(1)最近の研究テーマ・関心事

長らく監視カメラを対象とした現代社会論を研究してきましたが、本務校の担当科目の都合もあり、犯罪・非行をめぐる現代社会論、言説分析あるいは概念分析の社会学、社会病理現象の現場対応としての側面をもつ地域福祉などの仕事に取り組み始めました。

それぞれ試行段階でまったく形にはなっていませんが、研究分野としては徐々に学会の本流(?)に近づいているのかもしれない。

(2) 著書・論文等

- ・「地域福祉概念の再考」『福祉社会研究』15、2015、147-162 頁
- ・「特定秘密保護法案の言説が表すもの」『京都府立大学学術報告(公共政策)』5、2014、25-44 頁
- ・「『安全・安心』化とその増幅循環 ——不安と排除の現代社会論——」岡邊健編『犯罪と非行の社会学』有斐閣、2014、229-250 頁

○厚香苗会員(立教大学文学部兼任講師)

(1) 最近の研究テーマ・関心事

高度経済成長期に「陸上がり」したとされる、日本の伝統的水上生活者の近現代に関心があります。水上生活に慣れた人びとは、大都市港湾労働者として活躍していたようです。また水上で働く親をもつ子どもが利用した児童福祉施設の研究もしております。

(2) 最近の著書・論文等

- ・「『船乗りの村』の戦後—大分県臼杵市諏訪津留の場合」鈴木正崇編『森羅万象のささやき—民俗宗教研究の諸相』風響社、2015、729-747 頁
- ・厚香苗・藤原美樹・藤川美代子「水上生活者の子どものために設置された児童福祉施設の研究—『住むための船』から『学ぶための寮』へ移った子どもの視点から」『住総研研究論文集』No.41、2015
- ・『テキヤはどこからやってくるのか?—露店商いの近現代を辿る』光文社、2014

4. 会員異動

【住所不明】山田浩、馬場佳久、高橋正人、岩川幸治、砂谷有里

【住所等変更】

佐藤哲彦

畠中宗一

作田誠一郎

吉武由彩

【所属変更】

畠中宗一 関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究所

作田誠一郎 佛教大学社会学部現代社会学科

樋口くみ子 東京女学館大学国際教養学部国際教養学科

吉武由彩 下関市立大学経済学部

5. 事務局より

1. 過去の「大会プログラム・要旨集」および『現代の社会病理』の収集について

事務局では、保管用と今後の学会ウェブサイトへの掲載のために、現在手元がない以下の「大会プログラム・要旨集」のバックナンバーを探しています。会員の皆様の中で、下記の「大会プログラム・要旨集」をお持ちの方は、ぜひ事務局にお知らせ下さい。寄付あるいは一時的な貸与をお願いします。貸与していただいた場合は、複写した後にご返送させていただきます。

・1985～1988年（第1～4回大会）、2007年（第23回大会）、2008年（第24回大会）

2. 会費のお支払いについて

2015年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2014年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

- (1) 会費は7,000円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」（会則第19条2）という規定にもとづき、大学院生の会費は5,000円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する①大学院研究科の名称、②課程、③学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく5,000円が振り込まれた場合は、2,000円不足として処理します。
- (2) 会則第19条1には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別の事情がある場合、理事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事務局よりお知らせします。
- (3) 2011年度から終身会員の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が15年以上で70歳以上の方が対象となります。終身会費として5,000円の納入で、会員資格を継続することができます（ただし、機関誌1,500円は実費購入）。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。
- (4) 会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さるようお願いします。個人名の記載がない場合、入金処理ができないことがあります。

3. 所属・住所の変更について

所属・住所などが変更になりましたら、必ず書面（はがき・ファックス・E-mail可）にて事務局までお知らせ下さい。

4. 入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ (<http://socproblem.sakura.ne.jp>) からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

以上